

北あの子の第三児童クラブ

安全対策と職員確保を要求

甲南第一小学校の児童を対象にした学童保育「そまっこ児童クラブ」への入所希望が多く、施設の増設・改善が求められていましたが、このほど旧JJA甲南支店を借りることができ、今年夏季休暇から保育できることになりました。

山岡光広議員は、3月議会に続き、学童保育に入所を希望する子どもたちの「待機」を生み出さないために、施設整備と支援員など職員確保の必要性についても強調しました。こうしたなか6月議会の補正予算で、施設改修や運営費が計上されました。今後、現そまっこ施設は定員40名に減員、JA施設は定員80名の学童保育として運営される予定です。山岡議員は、議案質疑の中で、施設が県道に面していることから交通安全対策についても万全を期すよう要望しました。



旧JJA甲南支店を改修して学童保育所に

粘り強い運動実る

琵琶湖保全再生法を活用して「びわ湖の水質保全と生態系の回復を」

琵琶湖の保全及び再生に関する法律が昨年秋、全会一致で可決成立しました。国民的資産である琵琶湖を健全で恵み豊かな湖として保全・再生を図っているために国が基本方針を示し、県が「琵琶湖保全再生計画」を策定、国が必要な財政措置を講じる、というものです。日本共産党滋賀県地方議員団は5月19日上京し、新法を生かして琵琶湖がかかえる諸問題を解決するよう、国土交通省・環境省・農水省など政府に対して、地域の要望をふまえた22項目の積極的提案を行いました。政府要望には、山岡光広甲賀市議（湖南地区議員団長）ら10名の議員らが参加しました。



滋賀県議員団 政府に直接要望 日本共産党

国の責任で積極的に問題解決を

新法では、貴重な自然環境及び水産資源の宝庫」と位置づけながらも、今日、総合的な保全及び再生を図ることが困難な状況にある」と記されています。その要因の一つが開発優先の琵琶湖総合開発。日本共産党は新法審議にあたって、琵琶湖の総括を行うことが、びわ湖の保全と再生の前提としたうえで、ブラックバスなどの外来魚、赤野井湾や南湖を中心に猛威をふるう侵略的外来水生植物・オオバナミズキンバイや水草の異常繁殖がびわ湖の生態系を大きく変えている現状を打開するために、水質悪化の



メカニズムの解明とともに、従来の延長ではない抜本的な財政措置を講じて、びわ湖の保全と再生に国の責任で積極的な対策を講じるよう求めました。政府要望には、日本共産党の大門美紀史参院議員、清水忠史衆院議員も同席。福井原発群での事故によるびわ湖汚染のリスクについても指摘、原発の廃炉を求めました。



山岡光広議員も積極的に発言

市議10年で表彰

山岡光広議員が全国市議会議長会から「市議会議員10年」の表彰を受けました。「家族をはじめ支えていただいている人たちに感謝しながら、地道にコツコツ粘り強く引き続き頑張ります」と御礼と決意を述べました。



毎週発行しつづけているニュースが通算「600号」に

2005年5月22日付から毎週発行し続けている「山岡光広議員活動ニュース」が通算600号を超えました。ニュースの作成・発行は山岡議員ですが、毎週40人を超える人が協力していただいで地域配布を行っており、「楽しみに読んでいます」「市政のことがよくわかる」との評価をいただいています。